

2021 9/14

No.2146

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —

箱根の明星ヶ岳(924^{メートル})で8月22日、100周年を迎える大文字焼が行われた。今年は新型コロナ感染拡大で花火を取りやめるなど規模を縮小した。



視点点描	3
理想の新聞投稿を考える	
政治	4
万策尽きた菅首相 必要だった〈参謀〉と〈言葉〉	
社会	8
女性活躍、「目に見える形」で 英国の取り組みがヒントに	
経済	10
「はじめの一步」(中) = D X “日本版”は官製コンサル？	
政治双眼鏡	14
「自民党を若返らせます」 菅氏を追い込んだもの	
風人來人	15
「良い戦争」の結末	
アジアの風	16
マレーシアのコロナ対策遅れ	
NNAアジア経済レポート	17
神奈川景気データファイル	18
神奈川景気データファイル	19

事務局だより

◇2021年9月のオンライン講演会

= YouTubeによるライブ配信で実施

日時：9月22日（水）午後1時30分～3時配信

演題：総理番記者が見た自民党総裁選

講師：神奈川新聞特別編集委員 総理官邸担当の有吉敏氏

【お知らせ】神奈川政経懇話会ではホームページと会報「政経かながわ」に会員コーナーを設け、新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局 ☎045(226) 2121。

視点 点描



理想の新聞投稿を考える

子どもの頃は作文が苦手だったのに、何の因果か今は新聞投稿欄を担当し、毎日投稿者の文章を読んでいる。読みながら、何を言いたいのかと考え、読者はどう受け止めるだろうか、と考える。

「書く」という作業には、「自身との対話」という側面もある。書いているうちに、それまでありまなかった、自分が思っているこ

と考えていることが、次第に形を取ってくる。「はつきりと書きたいことがあって、書く」というのもいいが、「書いているうちに、考えがまとまる」という体験は時にスリリングで、面白い。と思えるようになったのは、大人になつてからだ。

「書き上げて、それで満足（その行為で完結）」という場合も、

もちろんある。でも一歩進んで新聞に投稿する人は、何を期待しているのだろうか。もちろん「掲載されたい」「読んでほしい」だと思いが、それに加えて「不特定多数の人に読まれる覚悟」をして、「伝わるだろうか」と心配りすることを忘れないでほしい。

大げさにいうと新聞投稿の理想像は、「書く」ことが「読まれる」ことにつながっているという意識を持って、「伝えたいと思って」「伝わるように」「分かりやすく」書くこと——と最近思うようになった（分かりやすく書く、というのはかなり高度な技術なので、省いても可）。というのは「言いたい」ことはよく分かるが、それをどれだけ「伝えたい」と思っているかは怪しい、私が勝手に「大声コンテスト」と呼ぶ種類の原稿が増えているからだ。

「自分の意見は正しい」と書き

つづり、反対意見を持つ人をその「正しさ」でいかに圧倒するかを目的にしているかのような文章。互いに「自分の方が正しい」と叫び合って（時にののしり合って）、内容でなくその「音量」を競っているような文章。そういう投稿を読むと、悲しくなる。

担当者として「投稿欄は意見交換の場」という理想を大切にしていく。その場所では、言葉の力を信じる人が、多くの人に向けて言葉をつむぐ。自分には思いも寄らない物の見方、考え方を知る。意見が異なる場合、どちらがより多くの読者を納得させるか、自分の味方に引き入れられるかに腐心する。むやみに敵をつくらず、賛同者を増やそうと、言葉を尽くして、競い合う。そんな場所であることを願っている。

（神奈川新聞社編集委員

青木 幸恵）